

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890700077
法人名	有限会社エンジョイライフ
事業所名	グループホーム 楽生苑
所在地	愛媛県大洲市松尾465番地1
自己評価作成日	平成29年2月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

天候が良い日は個別に散歩に出かけ、施設に閉じこまらない・閉じこめない支援を努めている。食堂のスペースは広く一人一人がゆったりと過ごすことができ、春には施設の周りに桜が咲き、ウッドデッキで花見を楽しむことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人主催の「癒しの森集い」には、300人程の参加がある。地域の高校生の和太鼓演奏等の出し物や地域の方が屋台を出す等、協力し合って運営している。公民館主催の秋祭りに参加した。
友人や家族と、手紙や絵手紙をやり取りしている利用者があり、職員は利用者と一緒にハガキを買いに行ったり、投函に行く支援を行っている。友人来訪時には、好きな場所でゆっくり話せるよう案内し、様子を見て仲介等してサポートしている。
手や口を出しすぎないよう気を付けており、職員は少し離れた場所で見守り、必要時にサポートをしている。カーテンの開閉、日めくりカレンダーめくり等、利用者が日課にしていること等もあり、職員はその都度お礼を言っている。
利用者ごとに浴槽を掃除し、湯を張り替えて、一人が週2～3回入浴できるよう支援している。シャンプー等は、個々の好みのものを準備している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 楽生苑

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

中田 大輝

評価完了日

29年 2月 22日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 業務カンファレンスで、理念である笑顔・慈愛・共に楽しく生きるの再確認を行い、管理者と職員が共通の意識で実践できるよう努めている。	
			(外部評価) 毛筆で書いた理念を額縁に入れ居間に掲示している。毎月発行する便りの表紙に理念を明示して、家族や地域の方達にも理念を知ってもらえるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育所の園児や地域ボランティアの方々に来訪していただき交流を図っている。また、毎年「癒しの森集い」というイベントを開催して地域の方々を招いたり、手伝いもしていただいている。	
			(外部評価) 法人主催の「癒しの森集い」には、300人程の参加がある。地域の高校生の和太鼓演奏等の出し物や地域の方が屋台を出す等、協力し合って運営している。公民館主催の秋祭りに参加した。地域の防災訓練や「芋炊きの集い」には、職員が参加して地域の人達と交流を図った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で実状を伝えて理解や支援内容を報告しているが、地域に向けて活かしているまでには至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	<p>運営推進委員の方々に避難訓練への参加をしていただいた時は、意見を聞くことができた。サービス内容や取組み等を報告して話し合いは行っているが、サービス向上に活かすことができているかは不安である。</p> <p>地域の区長、婦人会、公民館長、家族等の参加を得て会議を行っている。事業所から、活動・研修報告等を行い、地域の方からは、行事・公民館からのお知らせ等がある。</p>	<p>管理者は、今後、会議の機会を活かし、地域で役立つ認知症対応・感染症対策等を伝えたいと考えている。いろいろな立場の方が集まる会議を目指して行ってほしい。</p>
			(外部評価)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	<p>運営推進会議やグループホーム連絡会の意見交換の場にも出席していただき、実状を伝え協力関係を築くよう努めている。</p> <p>社協からの依頼で、行方不明になった地元高齢者の捜索に協力したことをきっかけに、事業所への入居につながった事例がある。市主催のグループホーム連絡会をきっかけに、他事業所の運営推進会議に相互参加したり、行事を通じて行き来するようになった。マジックショーや大正琴、踊り等、地域のボランティアを継続して受け入れている。</p>	
			(外部評価)		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	<p>内部研修として勉強会を行い、正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>年1回、内部研修で身体拘束、虐待について勉強し、日頃のケアの見直しの機会にしている。声のトーン等、気になる場面があれば、その都度話し合っている。</p>	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修を通して虐待防止について話し合い再確認し、全員が共通の意識でケアに取り組み防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修を一部の職員のみ受講しているものの、理解は不十分である。外部研修に参加したり、勉強会を開催して職員が理解できるように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネージャーによってご利用者とご家族にサービス内容を説明し、また質問があれば随時対応しながら納得した上で契約をすすめている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者・ご家族からの要望があった時は、運営に反映されるよう柔軟に対応している。直接は言いづらい意見も聞けるように意見箱を設置している。 (外部評価) 家族の来訪時を捉えて、利用者の日頃の様子を伝えたり、家族からの要望を聞いたりしている。毎月発行の「楽生苑便り」には、写真やコメントを載せており、家族に好評を得ている。行事ごとには家族に案内をしており、家族会時には、食事会を行ったり、動物園に出かけたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月実施している業務カンファレンスだけでなく、普段からも代表者や管理者が職員の意見や要望を聞き、反映させている。	
			(外部評価) 管理者は、職員の様子を見ながら気になる時には、話を聞く時間を持っている。新人職員には、不安を軽減できるように、先輩職員がサポートを担当している。気になる事があれば、その都度、職員間で意見交換する機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員個々の勤務状況を把握し、評価シートも利用しながら一人一人丁寧に評価している。また代表者は話しやすい雰囲気でもあり働きやすい職場作りに努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員と代表者を含め内部研修を定期的実施し、みなで学び話し合いスキルアップにつなげている。外部研修も職員意欲的に参加され、受講しやすい体制作りにも努めている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修を通して学びながら同業者と交流も図っている。グループホーム連絡会で情報交換の場を設け共有している。また、施設見学を計画してお互いの施設を職員が行き来し、交流も図りつつサービスの質向上にもつなげている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用者・ご家族からの要望があった時は、運営に反映されるよう柔軟に対応している。直接は言いづらい意見も聞けるように意見箱を設置している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用者や入居される前に、職員間でアセスメントをもとに状況の把握に努めている。ご本人は新たな環境で生活されるので、不安感が解消できるように笑顔でコミュニケーションを密に図り、信頼関係が築いていけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント、ご本人とご家族との事前調査を主にサービスを提供していく。また、必要時は他業者と連携して支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で役割を持ち支えあう関係作りに努めている。ご高齢で重度化している方も多く、一人一人のペースに合わせた支援をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族へ毎月のお便りを発行したり、状態の連絡や面会時には生活の様子を伝え、一緒に支援できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族より、馴染みの場所である家へ外出をしたいと要望があった際、ご本人・ご家族・職員の三者間で話し合い、協力を得ながら計画して職員が付き添い支援している。 (外部評価) 友人や家族と、手紙や絵手紙をやり取りしている利用者があり、職員は利用者と一緒にハガキを買いに行ったり、投函に行く支援を行っている。友人来訪時には、好きな場所でゆっくり話せるよう案内し、様子を見て仲介等してサポートしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の人間性や力を把握し、孤立せず日常会話や生活が送れるよう職員が仲介に入っている。時折席を変えてみたり、ご利用者同士が助け合い、生活していけるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された際、ご家族と連絡をとったり定期的にお見舞いに行き、状況把握し関係性を大事にしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話や生活の様子をみながら、ご本人の希望を聞いている。意思疎通が困難な方・失語症の方は、ジェスチャーや仕草や表情から把握してサービス検討している。 (外部評価) 入居時、フェースシートに沿って、利用者・家族の暮らしの希望を聞き取っている。又、入居後は、日常の様子や会話等を日々の介護記録に記入して、思いや意向の把握に努めている。介護認定更新時には、フェースシートについても基本情報の更新を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 以前のケアマネージャーやご家族から、情報収集して経過や状態の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご利用者の表情や動作、変化にも気を配り、申し送りで話し合い情報の共有をして状態の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ご本人やご家族の要望を取り入れ、ケアカンファレンスで課題やケアについて話し合い、その人に合った計画作成に努めている。担当制を検討していたが実行には至っていない。	
			(外部評価)	
			日勤職員が介護計画を確認しながら、毎日モニタリングを行っている。利用者・家族の要望を踏まえて、当日出勤する職員で話し合い、3ヶ月毎に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			ご利用者の行動や発言をそのまま介護記録に記入していき、情報共有を行い実践に活かしている。介護計画の見直しに、より取り組みやすいように記録の様式を変更予定している。	
			(外部評価)	
			療養マッサージ、訪問看護、訪問カット、歯科往診、パン屋移動販売、受診送迎等、状態やニーズに応じて柔軟に対応している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			(外部評価)	
			園児やボランティアの方による歌、踊り、マジックショー等、地域の方々に来訪していただき、催し物を楽しむことができる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的な往診やかかりつけ医から直接ご家族とやり取りすることもある。毎日ファックスで状態も報告して、情報を共有できる関係を築いている。	
			(外部評価) 利用者全員が往診可能な協力医を主治医としている。毎日バイタルサインをFAXで報告し、緊急時には往診を受けている。専門医の受診が必要な場合には、職員が付き添い受診を支援している。必要があれば、内服薬の見直しについて医師に相談している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週2回訪問看護師が来所される。報告や相談すると適切な助言をいただき、安心して支援することができている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご利用者が安心して治療できるように、入退院時はご家族と病院関係者と密に連絡をとり情報交換している。また、場合によってはリハビリの状態をみて、退院に向けて多職種と連携支援している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期になる前にご家族とかかりつけ医と相談しながら、今後の方向性を決めている。ご高齢の方や重度の方が増えてきており、看取りへの取り組みも検討している。	利用者や家族の希望に沿った支援が行えるような仕組みを作ってほしい。
			(外部評価) 今年度、初めて家族から看取り支援の希望があり、管理者は業務カンファレンスの機会を捉えて話し合った。現在、「看取りの指針」を作成中である。職員は、看取りの外部研修に参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			かかりつけ医に連絡して指示を仰ぎ、場合によっては訪問していただいている。応急手当や初期対応の訓練・研修に全職員は参加できていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年に2回以上消防署立ち合いのもと、職員、利用者が参加して、火災・地震の避難訓練を実施している。運営推進委員の方々にも参加していただく時がある。	
			(外部評価)	
			今年度は、法人全体で3回の避難訓練を実施した。火災・地震、夜間等、その都度想定を変えて行っている。事業所ごとに消火栓を設置している。	今月予定している避難訓練時には、訓練の様子をビデオに撮り、業務カンファレンスで見ながら対策について話し合うことを予定している。今後もさらに、立地条件を踏まえた避難訓練と協力体制の整備に取り組んでほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			1人1人の人格や思いを大切に声かけのトーンに気を付けながら敬意をもって対応している。	
			(外部評価)	
			手や口を出しすぎないよう気を付けており、職員は少し離れた場所で見守り、必要時にサポートをしている。カーテンの開閉、日めくりカレンダーめくり等、利用者が日課にしていること等もあり、職員はその都度お礼を言っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			ご利用者とゆっくり話をすることで、関係性を深め、思いや希望を言いやすい環境に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 活動と休息のバランスをとりながら、1人1人のペースに添った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご要望に合わせて訪問の理美容院に来ていただき、カットやパーマをしていただいている。ご本人が好きな衣類を選んで生活していけるような支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の好き嫌いを聞き出して、できる限り配慮している。毎月2～3回は、事業所で手作り日を設けており、利用者は食材を切ったり、味見や盛り付け等を楽しんでいる。	
			(外部評価) 法人の厨房から料理が届き、利用者と職員で盛り付けを行っている。手作りの日は、利用者の希望等を聞いて、鍋料理等を作っている。トレーは、食器が滑らないものを使用しており、片まひのある利用者も自分の力を使って食べていた。食事前には、全身体操・口腔体操を行い、食事まで皆で会話することが日課になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 状態に応じて水分にトロミをつけたり、お茶、コーヒーが苦手と水分摂取の種類に限りがある方には、好きなジュースもしくはゼリーを提供して工夫している。摂取量や水分量を把握し、栄養管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの声かけを行い、できる限りご自分で義歯や残歯を磨いていただき、最後に職員が確認している。困難な方は介助したり、歯間ブラシやガーゼ等も利用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレに行きたい訴えや動作を察知したら、すぐに誘導したり、早めの声かけ、重度の方も職員2人介助でトイレに座っていただき、自立にむけ気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 全員の利用者について、トイレで排泄できるような支援に取り組んでいる。パンツ・おむつの種類等については、業務カンファレンスで適切かどうか検討している。本人の希望で夜間のみポータブルトイレを使用するケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は牛乳やヤクルトを摂取したり、バランスの良い食事を提供している。体操やレクリエーションも行い薬に頼らないケアに努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人のその日の体調や希望に合わせて入浴しているが、安全確保でもあり時間は午前中にしてはいる。1人1人の状態に応じてシャワー浴や足浴をしたり、異性の介助を嫌がる方には、同性介助を支援している。	
			(外部評価) 利用者ごとに浴槽を掃除し、湯を張り替えて、一人が週2～3回入浴できるよう支援している。シャンプー等は、個々の好みのものを準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動とバランスを図り本人の要望や状態に応じて休息できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の指示のもと、安全で適切に服用できるよう服薬内容や用量を理解した上で支援している。服用してご本人の経過や変化時は毎日の報告書へ記入し、主治医へファックス送信して情報の共有に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で家事やレク等を通して、1人1人の力に合わせた役割、楽しみができるよう働きかけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候が良い日は積極的に散歩をしていただき、施設に閉じこめない。集団外出や個別の買い物、ご家族の協力も得ながら、ご自宅への外出支援に努めている。	
			(外部評価) 個々の外出については「外出確認表」で把握しており、回数や内容を確認して積極的に声をかけ支援している。敷地内を散歩したり、市内のスーパーや本屋、花見、ドライブを楽しめるよう支援している。外出の希望があれば、出来るだけその日に出かけられるよう調整している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 1人1人の思いを大切にご家族の理解・協力も得て、本人の希望でお金を所持したり実際に買い物に行けるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 訴え時に自ら電話したり、ハガキや手紙を書いて郵送して、返事が届くのを楽しみにされたりと、希望に合わせて支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者と一緒に生け花を飾ったり、季節を感じられるような工作をして食堂や廊下に掲示している。広々としたウッドデッキからは、ニワトリに餌をあげたり、気候が良い日は、みなでおやつを食べたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>併設事業所と廊下等でつながっており、利用者同士が行き来して過ごしている。居間や廊下には利用者の作品を飾っている。利用者同士でソファーに座り、会話を楽しむ様子が見られた。又、塗り絵や本読み等して過ごしている方もあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>気の合う利用者同士や合わない方等、随時把握し職員が配慮しながら対応している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>今まで使われていた家具や仏壇等、馴染みの物を置かれ、自分の家のように利用していただき、居心地よく過ごせるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>テーブルに仏壇と伴侶の写真を置き、毎日手を合わせる利用者がいる。じゅうたんを敷き、机を置いて自分の好みにしつらえている居室も見られた。読書が趣味の利用者は、自分で購入した本を読んでいる。各居室に洗面台が設置してあり、化粧品やくし等を準備して風呂上りや朝に整容する方もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>全てお手伝いするのではなく、一人一人の力を活かして自立にむけた生活が送れるように支援している。</p>	